



“心豊かに
笑顔あふれる”

青森県
総合社会教育センター

響

所報〈ひびき〉

No.
102

平成27年 6月19日

「賑わいのあるセンターに」



所長 坂本 徹

私にとっては3回目のセンター勤務となりました。4月に赴任して最初にしたことは、職員室の旧受付窓口を塞いでいた「バリア」を撤去することでした。多くの人々が集まって来てくれてこそこの「センター」なのです。窓口から中を覗いて「〇〇さんの顔が見えるな、ちょっと寄って行こう。」という雰囲気が大事だと思うのです。

かつては次々と人が訪ねて来て、それこそ「仕事にならない」くらいでした。市町村の社会教育担当者、団体やサークルのメンバー、小中高校の先生方、県庁や市役所の職員、民間教育事業者等々。センターの職員室は、言わばコミュニケーションルームだったのです。

様々な情報が持ち込まれ、交換され、議論が交わされ、盛り上がり、そして何かが生まれる。より良い社会を作る「町工場」のような…そんな雰囲気の場所でありました。

センターを漢字で表記すると「中心」です。当センターが本当の意味で「青森県社会教育の中心」となるためには、人が集い、情報が集まり、凝縮され、そして創造につながる場所でなければなりません。近くにおいでの際は、気軽にセンターの職員室を訪ね、私たちに声をかけていただければ幸いです。

人が集まるべきは職員室だけではありません。1階の公共スペースは、本来多くの人で賑わう場所であるはずですが、しかるに現実はとても静かなスペースとなっています。それでは困ります。

学校教育では、教室に行けば子供たちがおり、教師はその子供たちの表情を見ながら、あるいは声を聴きながら自分のすべきことを考えます。しかし社会教育では、対象とする人と接するためには、自分からそういう場所に出かけて行くとともに、自分の周りにそういう人たちが集まってくる環境を作る必要があります。

今後、当センターを乳幼児から高齢者まで様々な層の人たちが集い賑わう場所にしたいと思えます。ベビーカーを押すお母さん、中庭で歓声を上げる子供たち、調べ学習をする中学生、受験勉強に取り組む高校生、仲間と盛り上がる大学生、スキルアップに励む社会人、趣味やボランティアの活動にいそしむ高齢者…。

そうすることによって、社会教育主事とその賑わいの中に入り込み、直接対話をして生の声を聴く環境が生まれます。もちろんその環境は県内のすべての社会教育関係者が共有できるものです。

賑わいのあるセンター…そうなるこそ、センターはセンターとして機能できると思うのです。

青森県総合社会教育センター

検索

〒030-0111 青森市荒川字藤戸119-7 TEL 017-739-1252 FAX 017-739-1279 <http://www.alis.pref.aomori.lg.jp/>

出会い、ふれあい、学び愛！ そなた 公民館へ行こう！



八戸市立大館公民館

八戸市の東南東部に位置する新井田地域は、古くは三戸郡大館村と称しました。現在、人口12,000人余り。市民病院の建設、大規模商店の進出もあり、八戸の副都心的地域として変貌を上げています。

地域の要請にこたえ、コミュニケーションの拠点として、地域の活性化に寄与している県内の公民館を紹介します。今回は八戸市立大館公民館の事例です。館長 高橋 芳久 氏にお話を伺いました。

◆大館公民館の特色は

- ① 出 会 い…地域の発信基地としての公民館
- ② ふれあい…小中学校の児童、生徒全員との連携
- ③ 学びあい…まつりの関連講座の開講

◆新田城まつりとは

昭和33年当時、八戸市との合併を機に、歴史、文化、ふるさと意識の希薄化を懸念した当時のリーダーたちは、昭和34年、大館自治振興会を結成し、「ふるさとづくり」、「まちづくり」を企画推進していきました。新田城まつりもそのメンバーたちが語る夢の中から生まれました。

このまつりは、約380年前、新田城主である新田義実が、南部藩主南部利直の命により、遠野領へ国替えをするための出立行列の様子を再現したものです。

地域の歴史を知り、ふるさとへの誇りや愛着を育み、そして、住民同士のつながりの形成を目指し、平成17年から始まった新しいまつりです。

◆新田城まつりの成果

当初は手作りの小さなまつりでしたが、10回目を迎えた昨年度は、小、中学校とも出校日とし、児童、生徒が全員参加となるなど、関係者が総勢800名を超える地域一丸となった行事へと進化しています。

また、国替の地、遠野市との交流も盛んで、毎年、互いのまつりに参加して交流を深めています。

まつりは、地域が一体となる絶好の機会でもあり、住民が地域への関心とふるさと意識を高揚させる場でもあります。



◆新田城まつりと公民館の役割

まつりの運営は、地域住民が一体となって主導します。私は運営委員会事務局長として、各参加団体

との連絡調整と各種会議を運営しながら、地域のつなぎ役に徹しています。

また児童のまつりに対するモチベーションを高めようと、地元の小学校で地域の歴史、新田城まつりの由来を教えています。

このまつりの発信基地は公民館です。活動場所の提供はもちろん、人や団体を紡ぐのが公民館であり、仕掛け人的役割を果たしています。

また、まつりの関連講座として、踊り、着付け講習、歴史講座を開講しています。特に「まちづくりゼミナール」では、中学生と地域住民が、まつりの改善点について意見交換をし、まとめています。今年度は、その中から出された幾つかのアイデアを実践に移す予定です。



館長 高橋 芳久 氏

◆講座について

平成27年度は、「新井田の地域を知ろう」をテーマに、ふるさとウォークや歴史教室など46講座を開講し、実施する予定です。

また、新井田川親子はぜ釣り大会(自然教室)を催し、昔、私自身がそうだったように、新井田川は「危険な場所ではなく、遊びの場所」であることを子ども達に実感させたいと考えています。

◆館長としてのやりがい

利用された皆さんが「館長！帰るよ！今日も楽しかったよ！」と笑顔で帰る姿を見た時です。職員達にも話していますが、一人でも多くの「笑顔」を見ることができるよう、利用者の視点も忘れず、日々業務に取り組んでほしいと考えています。



講座受講生のビフォーアフター（第3回）

青森市立荒川小学校 学校支援コーディネーター
鈴木 早知子さん 八木澤 佳子さん

平成26年度「学校と地域の協働実践セミナー」受講生

人を覚えてつながっていくのが すごく楽しかった！



（鈴木さん）

（八木澤さん）

Q なぜこの講座を受講しようと考えましたか？

八木澤：約2年半前に勤めていた会社を辞め、それまで関わることのできなかった小学校のPTA等の活動に参加してみたいと思い、まずは図書ボランティアに参加しました。その後、学校支援コーディネーターを引き受けることになりましたが、それまでボランティアとかセミナーとか家庭と地域などについて考えたこともなく、まずは**多くの方のお話を聞いてみなければならぬ**と思い、受講しました。

鈴木：コーディネーターとして学校とPTAと地域との橋渡し役になったけれど何をすればよいのかよくわからなくて、様々な講座のチラシなどに「学校支援コーディネーター」と書いていけば、行きたいという気持ちよりは行かなければいけないという**義務感の方が強かったです**。



Q 講座の受講前後で、何か変わりましたか？

八木澤：学校と地域の関わり方について考えるようになり、その延長で町内会の活動にも参加するようになりました。**自分の方から関わっていきたい**という気持ちになりました。

鈴木：講座の中で学校支援コーディネーターのベテランの方の話を聞いて、**コミュニケーションが大事**なんだなと感じました。また、PTAの延長で関わっているのではなく、**学校とPTA、地域の人達の間にいるのだ**という自分達の立ち位置を確認することができました。

Q 講座を受講した後で、講座内容を参考にして実践したことについて教えてください。

八木澤：「チラシをつくろう」という講座で教わったことを参考にして、学校支援ボランティアについての地域・保護者向けのチラシを作りました。講座に参加した人のチラシをいろいろと参考にしながら、**見やすいように、手にとって読んでいただけるように**気をつけました。

鈴木：1回目のセミナーで「コーディネーターは**学校のお客様ではない**。学校のスリッパを履かない。自分の履き物を持ってきなさい。」と聞いて、これが心構えなのかなと考えました。学校支援コーディネーターはお客様ではなく、学校との橋渡しの役目なんだということ意識できるようになりました。

Q 今後してみたいことは？

八木澤：セミナーの「アイスブレイク」で教わった年齢に関係なくみんなが交流できるものを、学校と地域との交流会でやってみたいです。

鈴木：様々な人に学校に来ていただいて学校支援活動に参加していただきたいです。ボランティア通信をつくり、具体的な活動内容を知らせていきたいです。いろんな人達が活動に参加して交流できれば、**子ども達も楽しく充実できる**のではないかと、何か感じてくれるのではないかと考えています。

Q これから講座を受講したいと思っている人へのメッセージをお願いします。

八木澤：人前で話すのが苦手で、人との関わりが苦手な私が、様々な講座を受講することで、コミュニケーションのとり方、学校・地域への働きかけ方を学ぶことができて、少しずつ実践できるようになりました。学校や地域とどう関わっていけばいいのか、あまり難しく考えずにまずは**いろいろな人のお話を聞いてみたらいい**のかなと思います。



鈴木：何でも参加してみれば、自分のためになることが必ずあって、いろいろな部分で繋がりができてくるし、自分の力もついてくるし、気づきにもなります。悩んでいることがあっても、人と繋がっていて、話をしているうちに解決できることがたくさんありました。講座を通して**人を覚えてつながっていくのがすごく楽しかった**。だから、何にでも参加してみるのはいいことだと思っています。

おらほの〇〇自慢！

「真冬の大運動会」

上北郡東北町（旧上北町）にある小川原湖青年の家は、標高61.5mの小高い場所にあります。施設からは、八甲田大岳を眺望でき、四季折々の季節感を感じることができます。学校や青少年団体の活動拠点として交流の機会を提供し、様々な生涯学習の場として広く活用されています。

今回は、恵まれた自然環境を活用し、様々な主催事業を行っているこの施設において、他ではあまり行われていない冬の自然体験教室「真冬の大運動会」を紹介いたします。この教室は、平成27年2月7日（土）～8日（日）の日程で実施しました。外で遊ぶことが少なくなっている子供たちに、雪で仲間と楽しみ・学ぶ機会を提供したいと考え、小中学生をターゲットに企画しました。

「上北地方教育・福祉事務組合 公立 小川原湖青年の家」

スキー場や各自治体で行っているイベントを参考にしながら、青年の家でできることを考えました。例年以上の雪不足と闘いながらも所員全員で準備し、子どもたちを迎えることができました。



参加した子供たちは、はつらつと活動し、初めて会った仲間たちとともに楽しみ学び、大盛況のうちに終わることができました。

事後アンケートで参加者全員が「来年も来たい！」と書いてくれたことを何よりもうれしく感じました。

	午前	午後	夜
2月7日(土)	○仲間作り・開会式 ○雪上運動会 第1部 (パンパレード・ピサの斜塔)	○雪上運動会 第2部 (パイプス・雪上綱引き・雪玉入れ・加カトリル)	○創作体験 (思い出フォトアルバムづくり)
2月8日(日)	○雪上運動会 第3部 (スノーバトル) ○閉会式		

やってみよう！アイスフレイク

No. 3

★できる！役立つ！楽しい！ ★講座・研修会・仲間づくりの場で！

☆「自己紹介ルー」（5～10分、何人でも1グループ10人以内を目安に）グループワーク等を行う前に、世代を問わず、楽しく行うことができます。

●すすめかた●

- （1）「自己紹介」のお題を設定します。
《例》「今朝食べたもの」「最近ハマっているもの」「好きな芸能人」など
- （2）順番を決めて自己紹介をします。
《例》「納豆を食べて来た『A太郎』です。」
- （3）次の人は、前に言ったA太郎さんの自己紹介を復唱して、自分の自己紹介をします。
《例》「納豆を食べて来た『A太郎』さんの隣の、きんぴらごぼうを食べて来た『B子』です。」
- （4）次の人は、前の2人分の自己紹介を復唱して、自分の自己紹介をします。
《例》「納豆を食べて来た『A太郎』さんの隣の、きんぴらごぼうを食べて来た『B子』さんの隣の、フォアグラを食べて来た『C次郎』です。」
- （5）このように、次々と紹介者の話した内容を復唱しながら、リレーをしていきますが、最後は1番最初の『A太郎』に戻ります。『A太郎』は、全員分の自己紹介を復唱して、最後にもう一度、自分の自己紹介をして終わりです。

★ポイント★

楽しいお題を設定しましょう。自己紹介する順番を考えさせる楽しみもあります。人数が多くなると難度が上がりますが、時間がかかりすぎないように1グループの人数を設定しましょう。



「自己紹介リレー」の動画はこちらからご覧いただけます。

